

国際ロータリー第 2500 地区第 6 分区

帯広東ロータリークラブ会報



ROTARY
SERVING
HUMANITY

2016-2017 年度
帯広東ロータリークラブ

会 長 高 田 進
幹 事 石 川 博 機
メディア委員長 上 野 敏 郎

「**活** : かつ」

第1567回例会

平成29年5月21日(日) 於 とかちエコロジーパーク

■創 立 : 1984年6月15日 ■認証 : 1984年6月18日 ■例会 : 毎週火曜日 12:30~13:30
■事務局 : 帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会場 : ホテル日航ノースランド帯広

S.Mori



2016-2017 年度 国際ロータリーテーマ

【人類に奉仕するロータリー】

2016-2017 年度国際ロータリー会長
ジョンF・ジャーム

ガバナーテーマ

【ロータリーの明日の為に、積極的に行動しよう】

国際ロータリー第 2500 地区 ガバナー
駒 形 曙 美

月間テーマ

【青 少 年 奉 仕 月 間】

3 R C 合同育樹祭

◎友情の握手	音更 R C S A A
◎点 鐘	音更 R C 会 長
◎開 会 宣 言	音更 R C S A A
◎ロータリーソング	「それでこそロータリー」
◎ビジター紹介	音更 R C 副会長
◎会 長 挨 拶	音更 R C 会 長

十勝エコロジーパーク環境育成プログラム

5月21日第1567回帯広東ロータリークラブの例会は、帯広北ロータリークラブ、音更ロータリークラブとの合同でとかちエコロジーパークで開催されました。この例会の担当は音更ロータリークラブです。プログラムは、「育樹祭」です。3クラブ合同の事業でもあることから、毎年多くの会員の参加を得て開催してきた育樹祭も今回が最終回です。参加者は、枝払いなどで程よい汗を流した後の焼肉と飲み物でこれまでのご苦勞を労いながら会場をあとにしました。

ところで、今は何気なく、いや普通に行く「とかちエコロジーパーク」ですが、その誕生の経緯をみなさんはご存じでしょうか。

例会当日の働き、食べる美しい記録写真を見ながら、ここに至る「とかちエコロジーパーク」の経緯を知ることができる新聞記事をご覧ください。この事業の基軸には「十勝は一つ」を形にしたいとする願いがあったのです。



来月中の発足を確認

サーモンパーク 第一回準備会開く

地域の機運を盛り上げ、サーモンパーク(サケ回遊公園)を実現しようとする「十勝川サーモンパーク懇話会」の第一回準備会が二十九日夜、帯広東急インで開かれ、帯広青年会議所(JC)を中心に自治体や市民団体も参加して十一月中にも同懇話会を設立させることで合意した。

この準備会は、帯広JC(中津川武秀理事長)が呼びかけ、また林光繁十勝毎日新聞社

守帯広開建治水課長、帯広特別の観光担当若手二十人が出席した。

サーモンパークは千代田えん堤の改築にあわせてつくるのが実現性が高いとみられるが、まず品川治水課長は「住民から要望が噴き上がれば、改築工事にある程度取り組むことも可能、各町単一志向ではなく、広域的に取り組む必要がある」と語った。

事務局長▽林光繁十勝毎日新聞

常務は「国、自治体を動かすとともに、民間を含めた事業推進母体を構築する」とが課題」と指摘した。

準備会の出席者は次の通り。

▽品川守帯広開建治水課長
▽内田喜久雄帯広市商工観光部主査▽島田吉昭帯広市観光課長▽山根裕十勝かな会副会長▽山根裕十勝かな会副会長▽山根裕十勝かな会副会長

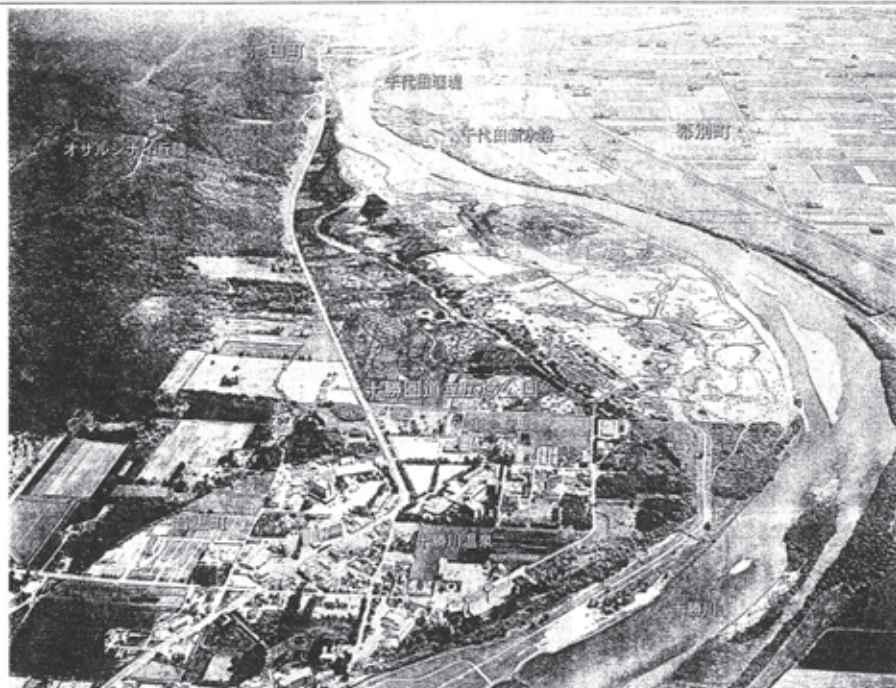
代表して萩原一利萩原建設工業常務がクワ入れ、玉くしをささげた。この後田本市長、三津丈夫帯広市議会副議長、萩原常務のあいさつ、斎藤和郎帯広市議会総務文教委員長が乾杯、最後に棚野侑司建設委員長長の万歳で締めくくった。

▽建築主体工事▽萩原・日崎・大道・西川・小甲・田中組共同企業体▽電気設備工事▽北口・デイエス・キロコ・北原共同企業体▽機械設備工事▽フジ・中林・大阪電機共同企業体▽冷暖設備工事▽三菱・浅岡・五建・荒木共同企業体

昭和60年10月30日付 十勝毎日新聞







十勝川周辺の40%以上を利用する十勝エコロジーパークの計画地。十勝川左岸では中核となる十勝園道立広域公園が整備される。

十勝エコロジーパーク計画図



現内地'97年度の基本計画

道立公園は来年度着工

千代田新水路や道の駅も
道立公園以外の計画

エコロジープーク

田中首相は、この日、東京市立大で演説した。演説の要旨は、大體、前掲の如きものである。田中首相は、演説の最後、大體、前掲の如きことを述べた。田中首相は、演説の最後、大體、前掲の如きことを述べた。

十勝エコロジーパークとは
民間が旗振り役に

【経緯】前身は「十勝川サマーバンクー
倶楽部」。1963年に北海道東部開発公庫が
「国営公園法」第21世帯にジョーン」の中で
増設したのを皮切りに、十勝川沿いの緑地帯を
順次開拓し、引き出された。その後、十勝川
沿いの十勝川で遊べるように中心とし、
1970年代前半、85年には、昭和青年会館所
在、沼田町村、施設経営者として「十勝川
」を設立、シボウムの隣接や先道地
現況など活動の輪が広がった。

関係者は、南定公園、推進協議会へと
交際し、84年に「マスタープラン」、91年
には「南定公園」を南定とした。95年には
模範の一部が国立公園に指定された、名
称も「十勝エコロジカルパーク」に変更となっ

さらに、77年に興パークの支援、国営建設の事業を行う「十勝エコロジーパーク財団」設立後、地域住民や道、市立開発建設部、地元自治体を中心に「関る会」が開催され、道立公園計画の検討が行われてきた。

音更、幕別、池田の418は2

【計画地】十勝川流域下流から千代田えん堀上流までの首更、藻別、池田の3町にまたがる河川敷など418haで計画。98年に、都市公園として408.8haが都市計画決定された。このうち、中核となる十勝園道立広域公園は、十勝川左岸で、首更を中心

環境育成、共生のシンボル

【建設・環境】十勝川水系に生息する動物植物を育成、保護しなご、流域、十勝土地の環境育成、自然との共生を考えるシンポジウムが、カヌーや乗馬、川遊び、キャンプなど十勝ならではのレクリエーション、環境教育などの観点とし、管内住民が自然と触れあう憩いの場や地域振興の場はもとより、地域間観光交流を促進し、観光客の誘致など、地域の活性化に資するものと期待されている。

計画地区では、十勝エコロジーパーク財団(中野区)が、Cなどの団体がキャンプや自然観察会などの先行利用を行い、経験を通関によりに役立てるとともに、将来的に活用の方針やの蓄積、人材育成などを目標としている。

十勝エコロジーパーク計画の事業プログラム(予定)

[illegible]